



2月5日、答志島や菅島ののり生産者でつくる鳥羽地区黒海苔養殖研究協議会から、市内のこどもたちにおいしい黒のりを食べてもらおうと、黒のり9,000枚の寄付がありました。

市長は、「地元こんなおいしいのりがあるのを知ってもらう良い機会です」とお礼を述べました。

なお、寄付された黒のりは、2月13日に市内の小中学校、幼稚園、保育所の給食で提供されました。

こんなおいしいのりがあります



1月16日、県立鳥羽高等学校の生徒10人と市立かもめ幼稚園の園児69人が昨年10月に新しくできた津波避難路の検証を兼ねた合同避難訓練を行いました。昨年の夏に同様の検証を行ったところ、同じ地区にあるかもめ幼稚園児の避難誘導が課題として上がったことから同校3年生の選択授業の一環として行われたものです。

高校生は幼稚園から防災ずきんをかぶった園児らを誘導し、手をひいたりおぶったりしながら更に高台の避難所を目指しました。

いざという時のために



2月9日、大明東町の鳥羽市リサイクルパークで、不要になった布を使ったぞうり作りが行われました

ぞうりは、古い浴衣の布とビニールひもを丁寧に編み上げていくことで完成となります。

参加者からは、「難しかったけど、先生の教え方が上手で楽しくできました。また、こういう機会をつくってほしい」と話してくれました。

履き心地抜群!



田原市産大アサリと鳥羽市産ノリで作った天むす入り「フェリー型弁当」(800円・右)と、安楽島産カキの炊き込みご飯の「しおさい海道かきめし」(980円・左)

伊勢湾フェリーの利用促進策を検討する鳥羽伊良湖航路活性化協議会は2月6日、鳥羽市と愛知県田原市を結ぶ鳥羽伊良湖航路の利用状況について、昨年4月から今年1月末まで利用状況が30万4521人で、航路維持のため目標としている3月末までの利用者35万人を達成する見込みであると発表しました。

また、同時に2種類の船弁の販売も発表し、2月9日から鳥羽フェリー乗り場で販売を開始しています。船弁は前日までの予約が必要で、伊勢湾フェリーサービス(☎257150)で受け付けています。

2種類の船弁を発表